

委託事業実施内容報告書

平成22年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【ボランティアを対象とした実践的研修】

受託団体名 学校法人吉岡教育学園 千駄ヶ谷日本語学校

1 事業の趣旨・目的

東久留米市にはおよそ 1,800 名（人口占有率 1.5%）の外国人が在住しており、複数の日本語教室が運営されているが、ボランティアを対象とする一定期間の養成講座が開講されてこなかった。そのため、ボランティアの中には不安を抱えながら日本語支援活動に携わっている人も多く見られる。

そこで、これまで当千駄ヶ谷日本語教育研究所グループが築いてきた実績やノウハウと、平成 19 年度の文化庁委嘱事業「対話を中心とした交流活動のカリキュラム」作成、平成 20 年度、21 年度に埼玉県久喜市、東京都東村山市で行ったボランティアを対象とした実践的研修を通じて得られた地域の日本語教室のニーズに関する情報を活かし、日本語支援を自律的に考え、実行できる人材の育成を目指す。

2 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
6 月 18 日 18:00～19:00	千駄ヶ谷 日本語学校	石井恵理子 伊東 祐郎 乾 美保子 内田美和子 梶村 勝利 久保田怜男 小山 紀子 武貞 明子 新山 忠和 吉岡 正毅 吉川 正則	・事業概要説明 ・長期研修案の説明 ・今後のスケジュール ・その他	・事業計画書に沿った事業概要の説明 ・研修目標と内容について ・研修の個別内容とスケジュールについて ・今後の運営委員会開催等のスケジュールについて
7 月 2 日 10:00～12:00	千駄ヶ谷 日本語学校	乾 美保子 小山 紀子 新山 忠和	・研修スケジュール	・研修スケジュールと研修内容の検討 ・受講者募集状況確認

		吉岡 正毅 吉川 正則		
7月9日 18:00～19:30	千駄ヶ谷 日本語学校	伊東 祐郎 乾 美保子 内田美和子 梶村 勝利 久保田怜男 小山 紀子 武貞 明子 新山 忠和 吉岡 正毅 吉川 正則	・研修スケジュールと研修 内容の検討報告 ・受講希望者募集状況報告 ・講座受講者アンケート等 ・初回配布物確認 ・その他	・参加者の募集状況報告 ・個別の科目とその内容 ・研修スケジュール ・開講準備と初日の対応 ・運営委員会のスケジュール確認 ・受講証明書の扱いと体裁 について
8月31日 17:00～18:30	千駄ヶ谷 日本語学校	乾 美保子 小山 紀子 新山 忠和 吉岡 正毅 吉川 正則	・研修内容検討	・第7回、第8回の内容検討 ・実習の進め方検討 ・実習1と2, 3との関連について検討
9月29日 9:00～11:00	千駄ヶ谷 日本語学校	乾 美保子 小山 紀子 新山 忠和 吉岡 正毅 吉川 正則	・研修内容検討	・実習1の総括 ・実習2の進め方確認 ・実習3に至る第10回から 第14回までの内容検討
10月20日 18:00～19:00	千駄ヶ谷 日本語学校	伊東 祐郎 乾 美保子 内田美和子 久保田怜男 小山 紀子 齋藤ひろみ 武貞 明子 新山 忠和 吉岡 正毅 吉川 正則	・研修の状況報告 (第4回・第5回運営委員会 での検討内容を中心に) ・今後の研修内容 ・その他	・内部運営委員会での検討 内容報告と研修での実践 報告 ・実習を研修中間で実施し、 最終部での実習に向けて 展開する研修内容の検討 報告と意見交換
12月16日 11:00～13:00	千駄ヶ谷 日本語学校	石井恵理子 伊東 祐郎 乾 美保子 内田美和子	研修終了報告	・第13回から第15回までの 研修実施報告 ・受講生アンケート内容の 報告

		梶村 勝利 久保田 怜男 小山 紀子 武貞 明子 新山 忠和 吉岡 正毅 吉川 正則		・研修内容の評価と今後の課題
--	--	--	--	----------------

【写真】



3 研修講座の内容について

- (1) 研修講座名 日本語ボランティア養成講座「おしゃべり型日本語交流活動
ボランティア育成講座」
- (2) 研修の目標 日本語支援を自律的に考え、実践できる人材の育成
- (3) 受講者の総数 31 人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)
国籍…日本 31 人
- (4) 開催時間数(回数) 40 時間 (15 回)
- (5) 参加対象者の要件
 - ・東久留米市内及び周辺地域の日本語ボランティア経験者
 - ・全日程参加できる方
- (6) 受講者の募集方法
東久留米にほんごクラス作成のチラシを配布して受講者を募集した。
(チラシ別添を参照のこと)

(7) 研修会場

東部地域センター 講習室 (7/17、9/18)

東部地域センター 会議室 1・2(9/25、10/16、11/6)

成美教育文化会館 大研修室(7/24、10/23)

成美教育文化会館 研修室 1(7/31、8/7、8/28、9/4)

成美教育文化会館 研修室 2(9/11、10/2、10/9、10/30)

(8) 使用した教材・リソース

・平成 19 年度文化庁委嘱『対話を中心とした交流活動のカリキュラム』

学校法人吉岡教育学園

・教授者が作成するレジュメ

(9) 講座内容

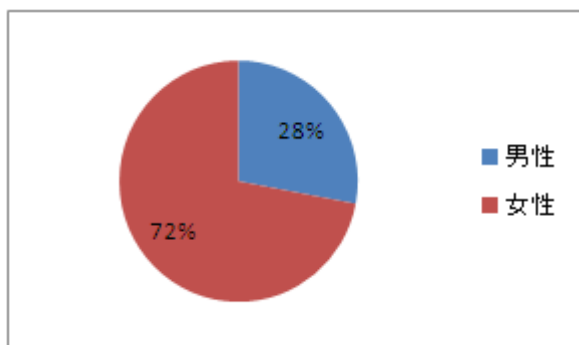
日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
7/17 13:30～16:10	おしゃべり型交流活動のためのスキル1…おしゃべりで学ぶとは？	千駄ヶ谷日本語教育研究所 日本語教師養成部部長 吉川 正則	29 名
7/24 13:30～16:10	おしゃべり型交流活動のためのスキル 2…ことばのルール①表現	学校法人吉岡教育学園 教育研究企画部部長 新山 忠和	29 名
7/31 13:30～16:10	おしゃべり型交流活動のためのスキル 3…ことばのルール②音	千駄ヶ谷日本語教育研究所 日本語教育部部長 小山 紀子	28 名
8/7 13:30～16:10	今、求められるボランティアとは？	東京外国語大学教授 伊東 祐郎	27 名
8/28 13:30～16:10	おしゃべりで学ぼう1…おしゃべりカリキュラムの使い方(生活編2)	千駄ヶ谷日本語教育研究所 日本語教育部部長 小山 紀子	25 名
9/4 13:30～16:10	おしゃべりで学ぼう2…わかりやすく伝える(生活編6)	千駄ヶ谷日本語教育研究所 日本語教師養成部部長 吉川 正則	27 名
9/11 13:30～16:10	おしゃべりで学ぼう3…おしゃべり実践に向けて(お付き合い編4) * 実習活動の狙い・進行予定と実習 1に向けた準備	千駄ヶ谷日本語教育研究所 日本語教師養成部 主任講師 乾 美保子	26 名

9/18 13:30～16:10	実習1・内省活動1	学校法人吉岡教育学園 教育研究企画部部长 新山 忠和	26 名
9/25 13:30～16:10	助詞の習得から考える日本語の 文法	東京外国語大学教授 伊東 祐郎	24 名
10/2 13:30～16:10	実習2・内省活動2	千駄ヶ谷日本語教育研究所 日本語教育部部长 小山 紀子	26 名
10/9 13:30～16:10	おしゃべりで学ぼう4…「学びにつ なげる」ことの整理と意識化	千駄ヶ谷日本語教育研究所 日本語教師養成部 主任講師 乾 美保子	24 名
10/16 13:30～16:10	おしゃべりで学ぼう5…「学びにつ なげる」ための具体的な方法	千駄ヶ谷日本語教育研究所 日本語教育部部长 小山 紀子	23 名
10/23 13:30～16:10	おしゃべりで学ぼう6…「実習3」 (10/30)に向けて ＜これまでの確認と準備＞	千駄ヶ谷日本語教育研究所 日本語教師養成部部长 吉川 正則	20 名
10/30 13:30～16:10	実習3・内省活動3	千駄ヶ谷日本語教育研究所 日本語教師養成部 主任講師 乾 美保子	26 名
11/6 13:30～16:10	実習総括・修了式	千駄ヶ谷日本語教育研究所 日本語教師養成部部长 吉川 正則 学校法人吉岡教育学園 教育研究企画部部长 新山 忠和	25 名

(10) 講座の評価

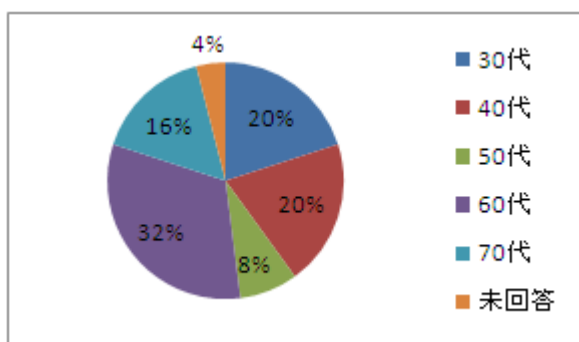
① 受講生に対するアンケート (回答数:最終日参加者 25 名)

性別



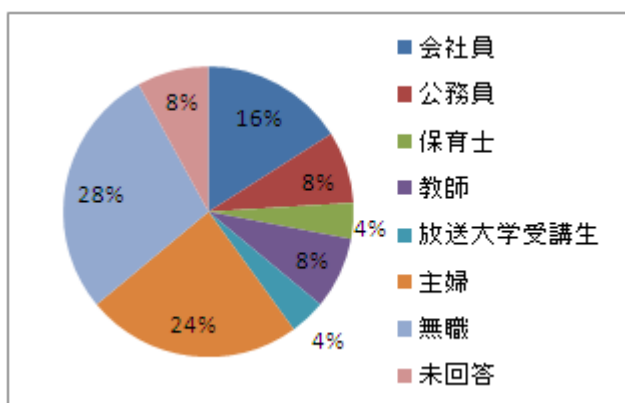
男性	7	28%
女性	18	72%

年齢



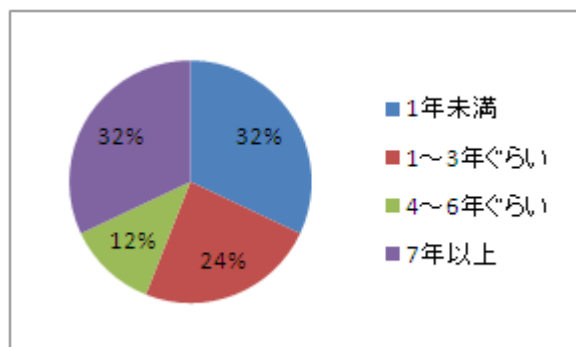
30 代	5	20%
40 代	5	20%
50 代	2	8%
60 代	8	32%
70 代	4	16%
未回答	1	4%

職業



会社員	4	16%
公務員	2	8%
保育士	1	4%
教師	2	8%
放送大学受講生	1	4%
主婦	6	24%
無職	7	28%
未回答	2	8%

地域在住外国人に対する支援・交流活動歴



1 年未満	8	32%
1～3 年ぐらい	6	24%
4～6 年ぐらい	3	12%
7 年以上	8	32%

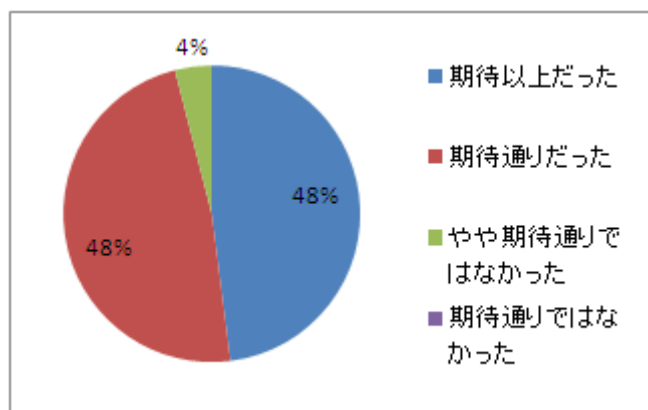
なぜこの研修を受けようと思ったのか。

- ・ 日本語教室支援のため。
- ・ ずっと教科書にしばられて、順番に勉強することに疑問を持っていた。
- ・ ボランティアとして少し幅を広げられればと思ったから。
- ・ 支援をおこなうためのスキルアップのため。
- ・ おしゃべりから学びにつなげる活動とはなんだろう…という興味から。
- ・ 何も知らずにボランティアを始めたので、きちんと学びたかったから。
- ・ 現在支援者として十分なのかどうかを検証したかった。
- ・ 東久留米にほんごクラスにて紹介されたため。
- ・ これまでの指導方法でいいのか、別のより良い指導法があるのではないかと思い、受講した。
- ・ 「おしゃべりで学ぶ」ということに興味があったから。
- ・ 学習者支援に自信をつけたかったため。
- ・ 日本語クラスで役立つと思ったから。
- ・ おしゃべりから学ぶということに興味があったから。
- ・ 地域の日本語支援の役割を模索中のため。
- ・ 日本語教育の新しい流れの活動法を知りたくて。
- ・ 「おしゃべり型」とはどんな指導か。
- ・ 今、自分のやっていることがどうなのか、方向付けと方法を知りたいと思った。
- ・ 日本語を教え始めたばかりだったので、どのような教え方があるか知りたかったから。
- ・ ボランティアを始めたばかりなので、学習者に役立てるように少しでも学びたいと思ったから。
- ・ 自分の指導テクニックがとても未熟なので。
- ・ 以前からこのような講座を探していた。「おしゃべりが学び」になったらいいな、と思っていた。
- ・ 今まで教えている教え方とは違った方法も検討してみようと思った。自分のカラーで

はなく、違った方法の勉強がしたかった。

- ・ 「おしゃべり型」という今までにない取り組みに興味があったため。
- ・ 日本語学習の支援に役立つと思い受講した。
- ・ 他の人がどうやって日本語を教えているのかを知りたかったから。

研修で取り上げた内容について



期待以上だった	12	48%
期待通りだった	12	48%
やや期待通りではなかった	1	4%
期待通りではなかった	0	0%

今回の研修で学んだことは何か

- ・ 文型よりおしゃべり。
- ・ おしゃべりの「始め」「途中」「終わり」のやり方と終わった後の内省活動により、お互いがきちんと意識化することの大切さ、またそれがなくても何かを学ぶことができるということ。
- ・ 「おしゃべり」を学びにつなげること。(メモを取る、振り返るなど)
- ・ おしゃべりを学びにつなげる手法と意識。
- ・ おしゃべりの途中での自分の意識のしかた、フィードバックのしかた、伝え方のタイミング。
- ・ おしゃべりを学びにつなげること。
- ・ 頭の二重構造と i+1 インプット仮説。
- ・ 学習活動におしゃべりが有効であること、そしてそのノウハウを知ったこと。
- ・ おしゃべりが日本語学習者に効果的であることがわかったこと。
- ・ 内省と意識化。
- ・ 学習者のニーズに基づいて教えること。
- ・ 内省と意識化、振り返りの大切さ、本人にあてはめでの学習を心がける。
- ・ ただおしゃべりするだけでなく、それをどのように学びにつなげるかということ。
- ・ 多文化共生社会作りへ向けての人間関係づくり。
- ・ 先生方のお話が楽しかった。文法その他日本のこと、地域のことなどにアンテナを張

っておかないといけないこと。

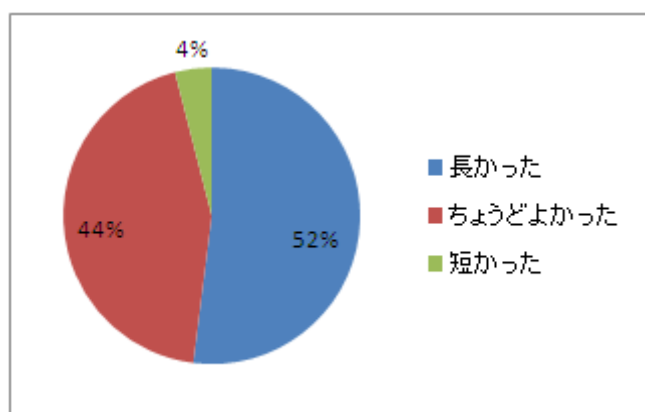
- ・ おしゃべりを通して体験を優先して指導を入れる。(教科書を使わない)
- ・ 記録を取る＝内省。
- ・ 時間を決める、メモを取る、内省をする など。
- ・ 日本語学校にはない、地域ボランティアならではの良さもある、ということ。
- ・ おしゃべりから学ぶことの大切さと振り返り。
- ・ 自分が話したい話題をしゃべろうとする意欲が最も教育効果が高いということ。
- ・ おしゃべりは罪悪ではない。後ろめたさを持たずに自信を持てた。
- ・ 相手が何を望んでいるのかによつての会話の対応、個人レベルの対応。
- ・ 身の回りのものすべてに学びにつながるものがあるということがわかった。
- ・ フィードバックすることの大切さ：学習者にも、学習を支援する私たち自身にも大切。
- ・ 言葉で国を学ぶより、個人を学ぶことの大切さ：よりよい人間関係、平和、楽しい雰囲気を作ること。
- ・ ガチガチの文法教育がいかに日本で行われているかがよくわかった。

今回の研修で学んだことをどう活かしたいか

- ・ 相手に合わせてしゃべる時間を増やすこと。
- ・ 今まで友だちになった外国人学習者の人とも自信を持っておしゃべりを通して学び合うことの楽しさを実感していきたい。新たな学習者の人ともこの研修で学んだことを活かして楽しくコミュニケーションをとれるようにしたい。
- ・ メモを取る、振り返るなどは苦手だが、ぜひ取り入れたいと思う。
- ・ 支援の1つの手段として取り入れていく。
- ・ 今活動している中で少しずつ取り組んでいきたい。(例えば、メモを取る・フィードバックなど) また、個人レベルで相手を理解すること、空間作りを日常から意識していきたい。
- ・ 学習者との人間関係を重視して支援していきたい。
- ・ これからも週1回地域で活動するので、その時に実践したいと思う。
- ・ 学習者の希望に合わせながらおしゃべりの時間を取り入れたい。
- ・ 学習者だけでなく、日ごろの人間関係・生活で役立てたい。
- ・ 実際の活動に活かしていく。
- ・ 今担当している人はカナダの方です。かなりおしゃべりをしている方ですが、その方の学びにつなげられるように相手の話に今以上に耳を傾けようと思っています。
- ・ 学習者のニーズにもよるが、コミュニケーションの大切さを生かすために取り入れていきたい。
- ・ おしゃべり型を行事などに入れていきたい。
- ・ 言葉のツールをまとめておきたい。学習者の興味に合わせて使いたい。

- ・ 技術的なことを実習を通して学んだ。また、メモの取り方、タイミング。特に内省→意識が弱かった。重要なのでおこなっていききたい。
- ・ おしゃべりを活かして、地域の外国人の方（クラスに入ることが主になりますが）との交流がより深まっていくよう（自分の目的意識を劣化させないように）努力していきたいと思います。
- ・ 今後ボランティア活動で学習者のニーズに合わせておしゃべりをどんどん取り入れて互いに学んでいきたいです。
- ・ ボランティアや日本語を教えるときだけではなく、自分自身の日常に活かしていきたい内容や考えでした。
- ・ クラスの授業はテキスト型なので、そのあとの食事会など補講的に「おしゃべり型」を導入していきたい。
- ・ 現在この講座で学んだことを教室で実行しています。学習者には好評ですので、もっと「おしゃべり型」の勉強で学ぶ人が増えて、日本語を楽しく学んでいただきたいです。
- ・ 相手のニーズを早くつかむようにして対応したい。
- ・ なるべく学習者にあわせ、いかに「学び」につなげるか、使える日本語をたくさん教えてあげたい。
- ・ 今まで以上に学習者の目的、ニーズ、背景に沿った学習者支援をしていければと思う。
- ・ 学習者の国により、母国語からの影響が違うので、考えながら教えて行きたい。

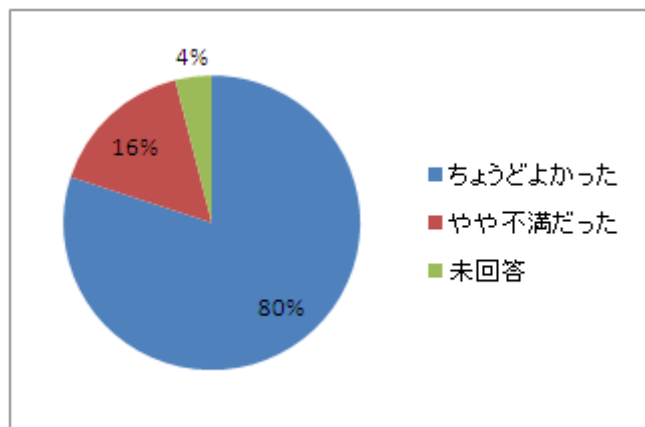
研修全体の時間の長さ（全 15 回）について



長かった	13	52%
ちょうどよかった	11	44%
短かった	1	4%

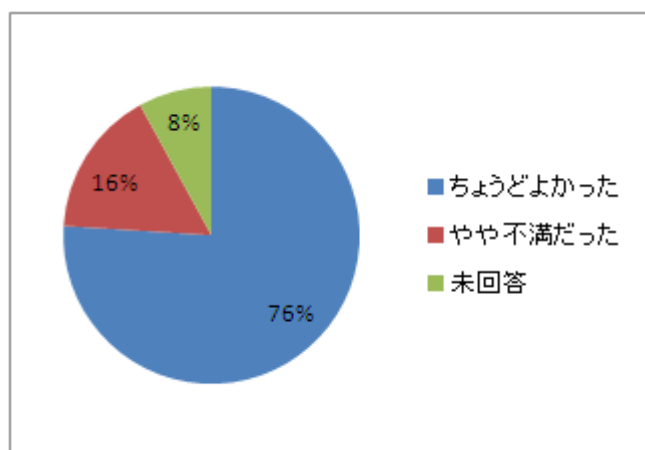
研修の曜日設定（土曜日）、時間設定（13：30～16：10）について

曜日



ちょうどよかった	20	80%
やや不満だった	4	16%
未回答	1	4%

時間



ちょうどよかった	19	76%
やや不満だった	4	16%
未回答	2	8%

今後、どのようなことを学んでみたいか。

- ・ 上級者の指導、日本語テストについて、子どもへの日本語指導。
- ・ 日本に来たばかりで、日本語が全くわからない人に対する具体的なアプローチの仕方、また研修を受けたことがないボランティアをどう取り込むか。
- ・ レベルチェックは難しいです。特に中級ではあるが、初級のある部分ができていない場合。
- ・ i+1 の見分け方や押さえ方について。
- ・ 実際のおしゃべり活動の映像などを見ながらやり方を学びたい。
- ・ 文法を知らないので機会があれば学びたいです。ありがとうございました。大変勉強になりました。
- ・ 日本語について学びたいと思った。学問としての日本語について何も知らないことに

気がついた。

- ・ 外国に関わりのある子どもたちへの学習支援について。
- ・ 性格的に話をあまりしないタイプの人から自然と会話や考えを引き出すコツ。
- ・ おしゃべり中心の話でしたが、これは中級クラスの人には最適で、もう少しレベルが低い人を対象とした講座を受けてみたい。
- ・ 学びたいことはたくさんありますが、具体的なことは頭に浮かんでできません。
- ・ 単語を指導することができるようになったが、学習者が知らない文型・表現レベルを教えてあげられるようにレベルアップしていくには、やはり文法の勉強は必要。
- ・ 日本語学を学びたい。
- ・ 文法的なことで自分のフィルターを細かくしていきたい。
- ・ 終わったばかりで頭の整理がまだなので考えられません。
- ・ 様々な指導方法、マンツーマン・グループなどの対応の違い。
- ・ 授業の作り方。特に入門・初歩レベルのテキスト型の授業。
- ・ 週1回（1回90分）の授業で1週間持続的に自習してもらう方法論。
- ・ 外国人との実践はかなり日本語を話せる方ばかりだったので、初級の方との実践勉強を学んでみたいです。
- ・ 「発音をうまく教える」ということを学んでみたい。
- ・ 外国語と日本語の比較、アジアの言語の中での日本語の特色などを教わりながら、外国人の日本語学習にどう役立てるかなどを学べればと思います。
- ・ 生きるためには何と言ってもコミュニケーション能力なので、コミュニケーションを大切にしながら学んでいきたい。

② 実施主体からの研修内容結果評価

今回の事業は、平成19年度当実施主体が作成した『対話を中心とした交流カリキュラム』（平成19年度文化庁委嘱）を使用し、過年度埼玉県久喜市、東京都東村山市において実施した「ボランティアを対象とした実践的長期研修」の経験も踏まえて行ったものである。

今回の長期研修も、その目的は、このカリキュラムを運用できる人材を育成することにあった。それは、これまでと同様、生活者としての外国人に対する日本語支援において、中心となるべき支援内容は文型（文法）ではなく、おしゃべりから得られる情報や人間関係であるという考え方に基いている。

地域の日本語教室は、その地域に生活者として住む外国人と地域住民との交流の場であり、その交流を通して互いに良好な人間関係を築き、共に住みやすい地域社会を作り上げるきっかけとなる場である。したがって、地域の日本語教室の日本語支援を考えるときに、いかに交流を促進させるかという点から支援内容を組み立てていく必要がある。しかしながら、地域の日本語教育では、文型（文法）を中心とした教科書を主教材として用いているところもあ

り、日本語支援者の中には文型(文法)を教えることが日本語の支援だと考えている人も多い。そこで、今回の研修でも、文型を中心に教えていく方法の技術や能力を高めることなく、交流の促進を目的とした「おしゃべりで学ぶ」という新たな支援方法を紹介し、その実践能力の育成を目指した。

日本語支援をおしゃべり中心にしても、話すためにはどうしても言語表現についての知識が必要になってくる。ある話題で話す場合、その話題を語るために必要な表現、あるいはその話題を語る時に知っていると便利な表現がある。それらを必要に応じて、外国人の方々に伝達し身につけてもらえば、ある話題についてより深く詳しく語ることができるようになる。そうなれば、外国人の方々は、さらに多くの必要情報を得たり、その話題を通して支援者とより深く交流をしたりすることができる。そこで、研修前半の内容は、「おしゃべり型交流活動のためのスキル」と題して、文法や音声、会話の指導についての要諦を押さえた上で、「おしゃべりで学ぼう」というタイトルで、『対話を中心とした交流カリキュラム』(平成19年度文化庁委嘱)をテキストとし研修を行った。おしゃべりを中心とした日本語支援の方法は、ボランティア経験の長短にかかわらず受講者にとっては新たな日本語の支援方法であった。

今年度は、過去の経験を踏まえ、研修中途に実習を設けた。それは、中途の実習で受講者の気付きを促し、内発的動機を後半の研修の前向きな受講に繋げるという狙いからであった。

研修前半の評価であるが、ある話題でおしゃべりをするという活動そのものは、受講者にとって日常でも普通に行っていることなので、おしゃべりを中心とした新たな日本語支援の方法は、受講者に抵抗無く受け入れられた。しかしながら、「おしゃべりで学ぼう」の最初の段階においては、ここでも支援者がしゃべることに夢中になり、おしゃべりの相手の日本語のレベルを考えずに難しいことばを使ってしまうなど、相手への配慮に欠けるおしゃべりが目立った。また、言語表現の伝達については、おしゃべり活動の中に取り入れられることが少なかった。それは、中途で行われた実習でも見られたことで、話題を語る時に必要な表現についての支援を行ったり、誤用に対する支援を行ったりする際の手法とその程度が研修後半の課題となった。ここで、当初期待した通りの内発的動機が生まれ、研修後半の「おしゃべりで学ぼう」においては、受講者同士の模擬実習においても、言語的支援や話題の展開を意識した上で実践しようとする動きが目立った。そして、研修最後の2回の実習でそれぞれの受講者なりの実践と振り返りが見られたことは評価に値する。

このように、本研修においては、交流の促進を目的とした「おしゃべりで学ぶ」という新たな支援方法を紹介し、その実践能力の育成を目指したが、中途に実習を配置したことで、特に研修後半、受講者の意識の変化と「学び」の場面が多々見られた。「おしゃべり」を「学び」に変えていくことの意義についての再認識と、文法項目を「教える」ではなく、相手が必要としていることを効果的に補っていくアプローチについて実践ができるレベルに導くという成果があっただけに、研修に参加した受講者には、本研修で学んだことを是非地域の日本語支援の発展に役立てていただきたいと強く望んでいる。

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

現地で日本語支援活動に携わっている運営委員を通して、その後の実践状況をリサーチし、必要に応じて適宜フォローアップを試みていきたい。

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

平成 19 年度、当事業主体が文化庁より委嘱された『対話を中心とした交流活動のカリキュラム』を本事業に活用した。

② 研修後の人材活用

本事業の受講者は、今後も東久留米市を中心とする地域で、外国人への日本語支援に継続的に携わることになっている。

(12) 今後の課題

本事業の受講者には、地域における日本語支援の経験が1年未満と比較的浅いボランティアも3割含まれていたため、本事業で習得されたことが円滑に実践され、地域の日本語支援に活用されるよう、当事業主体が地域の日本語教室に対して今後も継続して支援していくことが今後の課題である。

以 上

日本語ボランティア育成講座

「おしゃべり型日本語交流活動」

日本で暮らす外国人の日本語学習を支援するボランティア活動として、最近注目されている「おしゃべりで学ぶ」という新たな支援方法を紹介し、その実践能力の育成を目指します。

テキスト:「対話を中心とした交流カリキュラム」

おしゃべり型の日本語交流活動を実践する実習を含みます。

開催日時: 平成22年7月17日～11月6日の毎週土曜日 全15回
(ただし8月14日、21日を除く)
13:30～16:10

場 所: 東久留米市内 成美教育文化会館および東部地域センター (裏面参照)

対象者: 東久留米市及び周辺地域の「日本語ボランティア経験者」
全日程を受講できる方

費 用: 無料

定 員: 30名

講 師: 大学教員(日本語教育)、日本語専門学校講師

受講証明書: 講座終了時には受講証明書を授与します。

主 催: 学校法人吉岡教育学園 千駄ヶ谷日本語教育研究所
同校は創立35年の歴史を持つ日本最大の日本語教育機関です。

共 催: 東久留米にほんごクラス(外国人への日本語学習支援ボランティア団体)

後 援: 東久留米市

申込締切: 満員になり次第締め切ります。

申込・問合せ: 東久留米にほんごクラス 武貞(たけさだ) 明子 電話:090-5200-8970
Fax:042-473-5832 e-mail: nihongohkm@yahoo.co.jp

おしゃべり型日本語交流活動 ボランティア育成講座 参加申し込み

フリガナ

お名前 _____

ご住所 〒 _____

電話 _____ e-mail _____

所属 _____ ボランティア経験年数 _____ 年 _____ か月

日本語ボランティア育成講座 開催日程と場所

開催日(土曜日)	開催場所		
7月17日	東部地域センター	講習室	1F
7月24日	成美教育文化会館	大研修室	3F
7月31日	成美教育文化会館	研修室1	3F
8月7日	成美教育文化会館	研修室1	3F
8月14日	休み		
8月21日	休み		
8月28日	成美教育文化会館	研修室1	3F
9月4日	成美教育文化会館	研修室1	3F
9月11日	成美教育文化会館	研修室2	3F
9月18日	東部地域センター	講習室	1F
9月25日	東部地域センター	会議室1・2	2F
10月2日	成美教育文化会館	研修室2	3F
10月9日	成美教育文化会館	研修室2	3F
10月16日	東部地域センター	会議室1・2	2F
10月23日	成美教育文化会館	大研修室	3F
10月30日	成美教育文化会館	研修室2	3F
11月6日	東部地域センター	会議室1・2	2F

東部地域センター 東久留米市大門町 2-10-5

西武池袋線 東久留米駅より 徒歩10分 または バス 「神山大橋」下車
(バスは東久留米駅東口よりどのバスでも100円でいきます。)

成美教育文化会館 東久留米市東本町 8-14

西武池袋線 東久留米駅より 徒歩4分 線路沿い

